

平城宮第二次朝堂院東第六堂の調査

第261次調査現地見学会資料



1995.11.30~12.1 平城宮跡発掘調査
寄贈
平城宮跡発掘調査部

1.はじめに

第二次朝堂院地区の東半分については、これまでに第一堂から第五堂までの朝堂(第161・173・203・213・238次)と、朝堂にはさまれた空闊地である朝庭部(第163・169・188次)の継続的な発掘調査を行なってきた。その結果、第一堂～第五堂のいずれについても、奈良時代前半の掘立柱建物(下層建物)を奈良時代後半に礎石建物(上層建物)に建て替えたことを確認し、各建物の配置関係が判明するとともに、奈良時代を通じてこの地に朝堂が存在していたことが明らかとなっている。

今回の調査は、こうした成果を受けて、未発掘の第六堂を調査してこれまでの想定を確認するとともに、第二次朝堂院地区の調査に一応の終息を与えることを目的としたものである。調査面積は約2100m²で、調査は10月2日から開始し、現在継続中である。

2.検出した主な遺構

建物1: 奈良時代後半の第六堂で、版築により土を突き固めて造った基壇の上に建つ礎石建物。今回の調査地は、後世の開墾により大きく削平を受けており、基壇も遺存状況が極めて悪いが、凝灰岩の切り石を用いた基壇化粧の地覆石の抜取り痕跡とその外側をめぐる掘付け溝から、第五堂同様、東西37.1m、南北17.1mの規模であることが判明した。北面では2ヶ所に地覆石がそのまま残っている。基壇上では、削平のために礎石の据付穴が9ヶ所しか残っていないが、第五堂と同じく、桁行9間、梁間4間で、四面に扉が付く建物であったと考えられる。柱間は、身舎が桁行、梁間ともに約3.9m(13尺)、扉部分が約3m(10尺)である。また、第五堂と同様、北、南面には3ヶ所、東、西面には1ヶ所にそれぞれ階段があることが明らかとなったが、東、西の階段については梁間4間のうち南から2間目に付き、この点だけが第五堂と異なる。階段の出は約1.5m(5尺)である。基壇の周辺は礫や小砂利で舗装していたと見られ、北、西面で良好に残存している。

基壇の北、西辺ではこの礫の舗装面の外周に礫を交えた砂を埋土とする暗渠がある。また、第六堂の東、南面と西面の一部で足場穴を検出した。

建物2: 奈良時代前半の第六堂。発掘区の東端で東妻の柱穴を検出した。他の柱穴は未検出であるが、第五堂の調査成果から、桁行12間、梁間4間で南北に扉が付く東西棟建物があることはほぼ間違いないであろう。柱間は10尺。南辺で雨落溝を一部検出した。

溝3: 調査区西辺にある南北溝。深さ約10cmで、約35mにわたって検出した。黄褐色の粘土で人為的に埋められた状況を呈し、調査区南壁の土層観察の結果、整地土の下にもぐることが判明したため、平城宮造営時、下層の第六堂の建設時のものであると考えられる。この位置は、ちょうど第二次朝堂院の南北中軸線上にあたり、これらのことから、朝堂院建設時の計画線を示す地割り溝と考えられる。第二次朝堂院でこうした地割り溝を検出したのは今回が初めてであるが、同様の性格を持つ可能性がある遺構を、第188次調査で検出している。それは長さ約2m、幅約0.8m、深さ約1.4mの穴が4個、方位に対して45度傾いて方形に並ぶもので、ちょうど朝堂院の中心の位置にある。この穴には柱を立てた痕跡がなく、朝堂院の中心を示す何らかの施設の基礎であろうと推定される。今回検出した地割り溝も、本来第二次朝堂院地区を通して掘ったものであろうが、北方は削平されてしまったのである。

3.まとめ

今回の調査の結果、予想どおりの位置に奈良時代前半、後半の第六堂を検出し、朝堂院の建物配置が確定した。下層の第六堂は、東、西妻をそれぞれ第五堂の東、西妻に備え、南入側柱を第四堂の南妻に備える。上層の第六堂は、第五堂との関係は下層と同様で、南側柱を第四堂の南妻に備えるように変更する。また、上層の第六堂の西辺にも暗渠がめぐることが判明したのは、新しい知見である。

今回の調査で最も注目されるのは、朝堂院建設時の地割り溝を検出したことである。地割り溝は、古代の測量技術の復原では一般的な方法と考えられており、藤原京の条坊道路の設定にともなう例などはあるが、平城宮で遺構として確認したのは初めてであり、平城宮の建設時の様子がより具体的な姿で捉えられることになった。

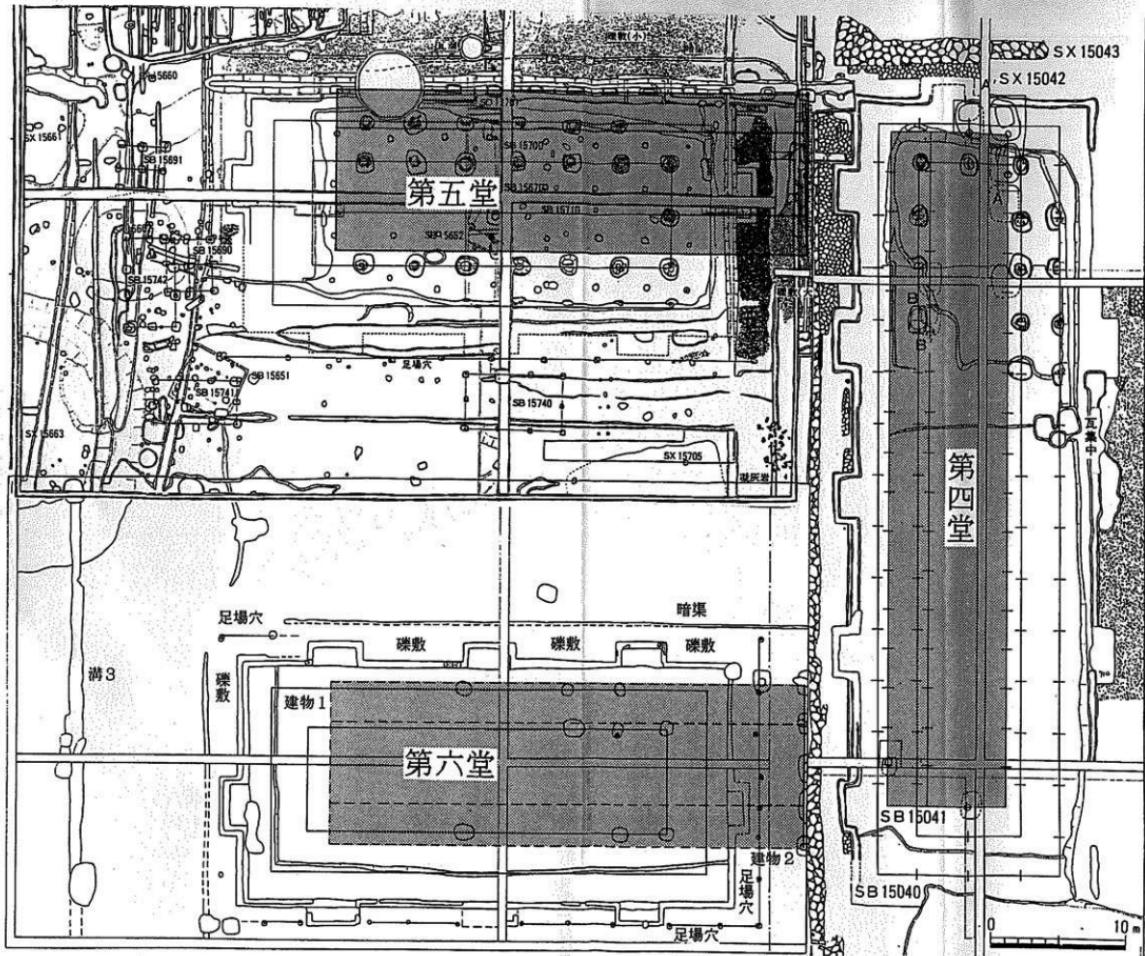


図1 第二次朝堂院東第四堂～第六堂発掘遺構図(網目は下層建物)

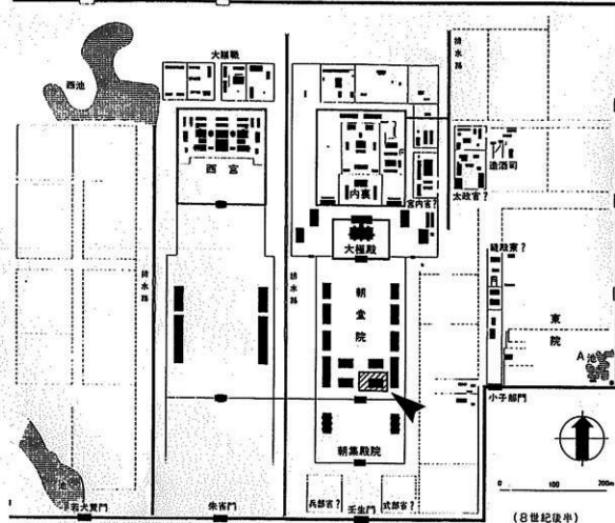


図2 調査区位置図

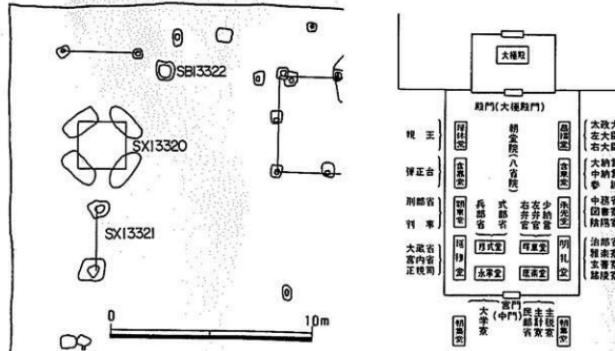


図3 第188次調査検出朝堂院中央部の造構

図4 平安宮朝堂院概全図

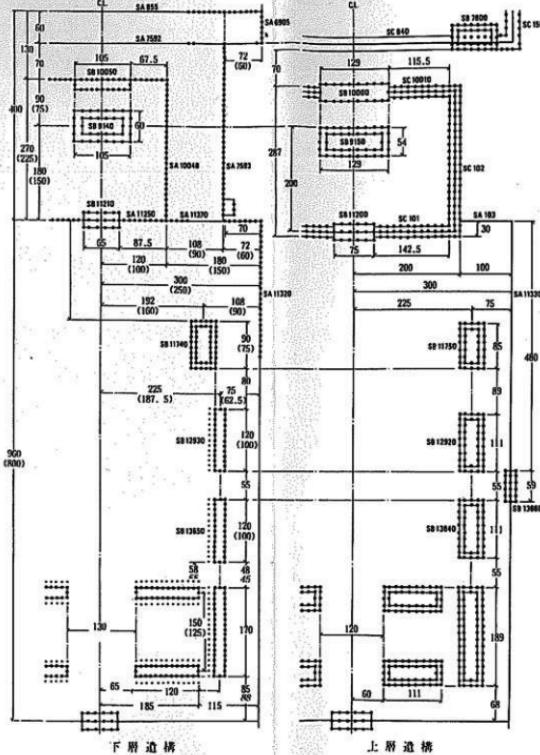


図5 第二次大極殿・朝堂院地域の建物配置の復原 単位小R、() 大尺